

令和5年度 長寿の里・津島 事業報告

1. 令和5年度の重点取り組み

・ 強固な組織体制の構築

新たに在宅総合センターとクリニックが加わり改新された津島拠点の中で、各部門をまたいだ研修や交流人事を行い、互いの部門を知る機会を作る事に注力をした。その成果もあり部門間の強固な連携体制の構築が出来つつある。

また、部門が増えたことによる役割権限の整理を行い、互いに助け合える体制と個々の職員が質の高いサービスを提供できるよう意識の向上に繋げることができた。

・ 職員の総合的な資質の向上

新たな業務にチャレンジする機会や、専門職として必要なスキル習得のため施設外研修へ参加する機会を増やす等、自発的な成長やキャリアアップへの高い意識を醸成させることができた。また、役職者が周りへ業務を任せる意識の徹底により、職員個々の資質向上に繋げることができた。

・ サービスの向上と拡大に向けた取り組み

新規リハビリデイサービスの開設と訪問サービス集約により、地域の福祉ニーズに広く対応可能な体制を作ることができた。また、利用者が楽しみながら満足できるサービスの提供、地域や家族との連携によるサービス内容の充実を図ることができ、社会と介護現場の関係が戻りつつある一年であった。

2. 部門別運営報告

(1) 特別養護老人ホーム

令和5年度は4つの事柄を達成すべく業務遂行をした。

1つ目は事故に対する予防意識の強化で、発生した事故内容の分析や全体共有、再発防止検証の徹底等により、前年度に比べ入院数の減少と長期入院に繋がる重篤な事故を減少させることができた。

2つ、3つ目は相互に紐づく取り組みで、サービスの質と満足度の向上及び感染症への徹底的な配慮を行った。5月より新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことに伴い、施設内で予防策を徹底しつつ、利用者の満足度向上のため外出や夏祭り・慰問の受け入れなど施設行事や面会方法の緩和を行い、令和元年以前の施設の日常に近づける事ができた。

4つ目は褥瘡予防で、早期の介護用マットの調整や嘱託医往診による予防、悪化防止に努めた。また、褥瘡対策委員会を毎月開催できたことにより、職員間の意識が強化され、ケアの向上にも繋がった。

(2) ショートステイ

同拠点デイサービスとの併用利用者も増えたため、事業所間の連携強化を目標に、報告・連絡・相談・確認について申し送りの徹底や情報共有ツールを活用し、情報に漏れないよう努めた。それにより、重要な事項についても“知らない”というスタッフを減らすことができ、各職員が情報のアンテナを高く持てるようになった。良質なサービス提供に加え、情報共有を徹底し、拠点内の各事業所と連続的なサービス利用の体制構築を行った。

(3) デイサービス

地域のリハビリニーズに応える拠点として、6月に在宅総合センターの一部としてリハビリデイサービスを新たに開設した。「あきらめないリハビリ」をスローガンに利用者、家族の思いに合わせた個別機能訓練計画を作成し、理学療法士・作業療法士のリハビリを受けトレーニングに取り組むリハビリ特化型のデイサービスは、地域の皆様からの反響も大きく利用者からも好評を頂いている。

既存のデイサービスは中重度向けの事業所として位置付け、イベントや創作物を作る機会を充実し、また利用したいと思っただけのような企画を職員一同常に考えて実施し、ご家族やケアマネージャーへ報告を密に行ったことにより満足度向上に繋がった。

専門職だけでなく介護職員一人ひとりの接遇スキルや介護スキルの見直しを行い、施設内外研修への積極的な参加、無資格介護職員には認知症基礎研修や初任者研修受講を推進し、無資格介護職員ゼロの体制を達成することができた。

多くの居宅介護支援事業所へも情報発信を行った成果として、事前想定より多くの新規契約を頂く事ができた。

(4) 居宅介護支援事業所

連携協力し合える関係性を築くため、お互いの特性に対する理解を深めることに努めた。各自治体や包括支援センターとの関係を強化、社会資源を正しく理解し、サービス計画書(今後の方針)、アセスメント総括表、モニタリングシート等を利用し、ご利用者様の生活全般の課題評価を実施した。また、定例会議を行い職員一人ひとりが持つ情報を共有する事により、チームとしての体制強化にもつながった。日常のかつ継続的なプラン点検を行い、細かな点まで配慮が行き届くように努めている。

(5) 老人給食サービス

新興感染症や衛生管理に注意し、市役所との情報共有を行い、安否確認など地域に必要とされるサービスの提供を行った。

3. 今後の目標

部門ごとの体制構築及び分担を見直し、提供できるサービスの細分化により一層地域に寄り添える拠点を目指した組織作りに取り組んでいく。今後も利用者の満足度をいかに高められるか、スタッフ一丸となって取り組んでいく。

全てのスタッフが地域生活に携わる一員という意識を強く持ち、組織が一体となり地域を支える取り組みと地域や家族との信頼関係構築とサービスの向上への取り組みを今後も継続して行っていく。

感染症対策については事業所内感染の蔓延防止、検温・手洗い・うがいの徹底、持ち込みへ十分に注意し、新型コロナウイルス 5 類感染症移行後も全ての感染症対策を継続していく。

職員の資質向上として、毎月の委員会と年間計画に則った研修発表を行い全スタッフに意識付けを行い、日常の中で点検や見直し等の取り組みを行っていく。合わせて、新たな業務にチャレンジする機会をより増やし、施設内研修や勉強会の開催、第三者による講習会等で技術や知識、態度の向上を図り全スタッフ参加型の学びの場が開催できる取り組みを行なっていく。スタッフ皆がより良いサービス提供への意識向上が見られており、今後もサービスの充実を図るべく研鑽していく。